

新たな江戸時代の魅力を続々発掘

江戸時代
庶民文庫

第1期

第1～60巻・別巻1

全収録内容

庶民の暮らし・知恵、社会の諸相が生き生きと展開
多彩・豊富・貴重な“版本”で時代に肉迫！

学術資料出版

大空社出版

2026.10

【収載資料の分野(ジャンル)・点数】

女性 [5分野 30点]

女性百科 / 女子教訓 / 風俗・遊女 / 産育 / 家政

ことば [3分野 23点]

語彙 / 道歌・俚諺

道德・教育・宗教 [6分野 101点]

仏教(臨終行儀、往生、放生など) / 教訓 / 法令・教諭 / 礼法 / 教育 / 神道 / 祭祀

その他 [8分野 43点]

食生活 / 養生・医学 / 諸芸 / 暦占 / 遊戯 / 便覧・年代記 / 地誌・外国地誌 / 救荒・防災 / 産業・経済

いまにつながるテーマ、江戸時代だからこそその
多種多様な題材が満載！

約 200 点、総約 22,800 ページから
知りたい情報をすぐ見つけたい…

たとえば…

(別巻)『江戸庶民の生活を知る』で
たちどころに捜せます！

「地震」

江戸時代庶民は「地震」に
どんなイメージを抱いていたか
知識と情報は、生活との関連は？



【体裁：A5判・上製・クロス装・660頁】
ISBN 978-4-908926-02-0
(2016年12月刊)

本体 28,000 円

第1期・別巻

「江戸庶民」の生活を知る

江戸時代庶民文庫 [第1期 (第1～60巻)]
別巻「解題・索引」

《解題》①『江戸時代庶民文庫』全60巻に収載した22ジャンル約200点の資料の解題(書誌情報と内容概説)を収録。本巻刊行後の新知見を加え、参考図版も追加するなど、既収録の解題内容を更新した決定版。②「**主要目次**」は資料本文中からキーワードを抽出しページを示したもので、解読しにくい資料の内容を知る格好のツールとなっている。

《索引》①索引(事項・人名・書名)約170頁・索引語総数約5250は**江戸庶民の生活・思想にアクセスするキーワードの宝庫**。②「収録文献索引」2種=『庶民文庫』収録文献(五十音順)と、『庶民文庫』(全60巻)+『江戸時代女性文庫』(全100巻)の収録文献をあわせ「分野別」に編集。さらに『女性文庫』収録文献目次も添え、**江戸研究に必見の2大資料を横断する至便なツール**とした。

江戸時代庶民文庫

解題 小泉吉永
(往来物研究家)

第1期 全60巻(第1～60巻) 全8回配本(2012～2016)
「江戸庶民」の生活を知る 第1期 別巻
* 第2期 全40巻(第61～100巻) 全8回配本(2016～2022)
「江戸庶民」の生活を知る 2 第2期 別巻
* 2022年5月完結

学術資料出版

大空社出版

「江戸庶民」の生活を知る

江戸時代庶民文庫〔第1期(第1～60巻)〕 別巻「解題・索引」

江戸時代研究を加速させる必携ツール！

《索引》で「地震」を引く

＊単語のみならず句から引ける「読める」索引

- 四書 31-75
- ＞ 四書五経 11-245, 50-61, 51-26
 - ＞ 四書の素読をした者は一生乞食には落ちぬ 51-265
- 辞讀 21-292, 32-51
- 詞章の学[習い] 32-71, 45-82 → 記誦の学
- 至親 34-238
- 嗣親(ししん) 32-331
- 地震 56-35, 59-307
- ＞ 地震失 10-133 ●
 - ＞ 地震殿 59-279
 - ＞ 地震の歌 22-230
 - ＞ 地震の揺るを前方に知る 28-205
 - ＞ 地震前の水脈の異変 59-333
 - ＞ 地震除けの呪い 59-335
 - ＞ 地震を案ず 59-350
 - 地震を繰り占う 27-311
 - 地震を知る歌 26-340
 - 地震を揺らす 8-54
- 地神五代 40-152, 40-260, 60-309, 60-309
- 賤ヶ岳合戦 40-90
- 至誠は天地を貫く 36-139

次々と展開する
江戸庶民の心と知恵！

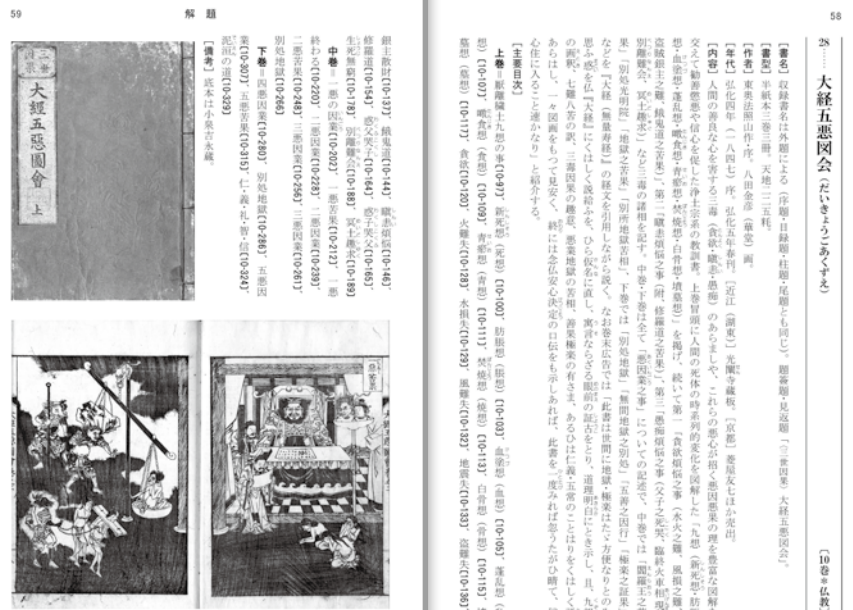


第10巻【仏教】より



…となりのページに
興味をそそる絵が

《解題》で資料の内容を詳しく知る



第27巻【家政】より

見本縮小

＊ていねいにルビが振られているので分かりやすく検索しやすい。

江戸時代庶民文庫

第1期

全60巻(第1～60巻)

全収録内容

【ジャンル】「収録資料点数」

*各巻分売可

(分売価格一覧は p.11)

*収録図版より(収録巻)

1巻【女性百科】「1点」

①女芸文三才図会(おんなげいぶんさんさいざいぐゐ) 三代目吉文字屋市兵衛(鳥飼昭・醉雅)編・序。潜電溪美啓補。三浦茂樹序。天保12(1841)▽大阪書肆・吉文字屋市兵衛板の女子用往来数点を組み合わせたもの。「十二月和歌」「蹴毬和歌」「百人一首」等の和歌・教訓歌、「幼女そだて草」「女手習状」「女媛方百箇条」「教訓百箇条」などの女子教訓、本朝賢女略伝、婚礼祝言・食礼等の礼法、香道・化粧その他種々の記事から成る。

2巻【女子教訓】「2点」

①女要訓和歌文庫(おんなようくわん) 桃江舎漁舟作・跋。長谷川光信画。板木彫刻は難波屋利兵衛。寛保3(1743)▽『栄花物語』と『源氏物語』等木巻前半部の「雨夜品定」をモチーフにした異色の女子用往来。

3巻【語彙】「2点」

①万宝女節用器粟囊(ばんぼうにせうきあはら) 山本序周編。享保6(1721)▽天地・神祇・人倫・年月・衣食・草木・生類・器財・言語の9部門で、御所言葉などの女性語を集めた節用集。

4巻【女子教訓】「3点」

①女今川以呂波文(おんないまがわいりはふみ) 北尾辰宣(仁右衛門・雪坑斎)作・画。明和3(1766)▽明和2年11月出願の『女七宝操庫』の改題本(出版直前の改題のため「女七宝操庫」での出版は皆無か)。「セツいろは」にならって女子の心得となるべき金言・俚諺などをイロハ順に7語(7行)ずつ書き出した教訓。

②女九九乃声(おんなくぐのこゑ) 大江文坡(大江匡弼・菊丘臥山人・臥仙子)編・序。下河辺拾水書・画。天明7(1787)▽九九の読み声と教訓歌、さらにそれを敷衍した挿絵と頭書で構成された女子用往来。冒頭で女性の日常生活における九九の重要性を強調する。続いて、九九の読み声毎に第一音が文字鎖で連なる教訓歌36首と挿絵36葉を掲げる。

5巻【風俗・遊女】「3点」

①漫画百女(まんがひゃく) 合川亭珉和画。灌河山人(文屋茂喬・売書翁・ふみ売の翁・吉田屋新平衡)作・序。文化11(1814)▽江戸後期の女性風俗を描いた三色刷りの絵本。

6巻【諸芸】「4点」

①当流謡指南抄(とうりゅうようしんしょう) 作者不明。元禄9(1696)▽謡本の出版が最盛期を迎えた元禄期の代表的な謡曲教則本。

7巻【曆占】「3点」

②人相小鑑大全(にんそうしょうかんたいせん) 喜多村江南軒作。貞享1(1684)▽江戸前期を代表する人相学入門書で、上巻は総論及び人面部、中巻は眉・眼・鼻・耳・口・唇・歯・舌部、下巻は手相部からなる。

8巻【遊戯】「4点」

③秘事百撰(前編)(ひしひゃくせんぜん) 福井智徳斎作。文政10(1827)▽主に面相の十三部位・十二宮による善悪吉凶の要点を記した簡易な小冊子。前編は100項を掲げ、後編は全50項。非実用的な奇術が大半を占め、総じて、一種の宴会芸・余興集である。

9巻【宗教(臨終行儀)】「3点」

④孝養集(きょうようしゅう) 作者不明(伝寛鑊作)。寛永20(1643)▽書名は老母のために「聖教ノ道理」と「実ノ道」を綴ったことに由来し、上巻「善悪ヲ明ス」十二カ条、中巻「実ノ道ヲ明ス」15カ条、下巻「臨終正念、往生極楽ノ心ヲ明ス」10カ条の三巻に分けて説く。

10巻【要篇】「1点」

⑤四要篇(しようよう) 関通(向誉)・法岸(光誉)作。文化13(1806)▽西円寺住職として地域の民衆教化に尽力した法岸が文化12年12月5日に入滅したのを機に、法岸が長年にわたって講じてきた向誉関通の遺書三編に、法岸の遺稿を

11巻【新法狂字図句画】「1点」

⑥新法狂字図句画(しんぽうきやうじずくご) 万享応賀作。安藤広重(一立斎)画。江戸後期▽文字で描いた「文字絵」に狂句を加えた戯作。

12巻【蜀山人狂歌図絵】「1点」

⑦蜀山人狂歌図絵(しよくさんじんきやうかゐえ) 蜀山人(大田南畝)作。文化14(1807)▽日本の茶道の歴史や茶室・茶器・茶席等の用語・心得を記した往来物。

13巻【俳諧図会】「1点」

⑧俳諧図会(はいかい) 金水道人(松亭)作。漢斎英泉画。江戸後期▽幕末の俳人約90人の発句187句を色刷り挿絵とともに掲げた小冊子の絵本。

14巻【女今川園生竹】「1点」

⑨女今川園生竹(おんないまがわのうゐたけ) 高井蘭山編・序・跋。文政5(1822)▽男性用の『古状揃』にならい「女今川」「女手習状」「存義の母書の勸る文」「智月三道の文」「千代女四民の文」「最明寺殿の母公殺生の禁」「梶女七情の教訓」「千代能欣求浄土の文」「園女兄弟姉妹の間を論ずる文」の9条を収録した女子用往来。



(7)



(6)



(5)



(1)

添え、『四要篇』と題して刊行。

10 卷【**仏教(往生)**】「3点」 ①**女人往生章**(じょにんしやう) 洞空(とうくう)慈泉(じせん)編。延享1(1744)▽主に女人往生に関する疑問に答える形で、女性が往生し成仏し得る所以を説いた浄土系の仏教書。 ②**贈貴族女性法語**(おくるきやくじやうせいほふご) 釈超然(しやくしやうぜん)作。天保3(1832)▽近江国神崎郡福室村の覚成寺住職の超然が、江州薩摩村・善照寺了観の室葉室頼寿卿息女(むろもりのきよたけのむすめ)の懇望により著した真宗系の教訓書。 ③**大経五悪図会**(だいきやうごあくずゐ) 東奥法照山(とうおくほふしやま)作・序。弘化5(1848)▽人間の善良な心を害する三毒(貪欲・瞋恚・愚痴)のあらましや、これらの悪心が招く悪因果の理を豊富な図解を交えて勸善懲惡(くわんぜんちやうあく)や信心を促した浄土宗系の教訓書。

11 卷【**仏教(仏教一般)**】「4点」 ①**孝子善之丞感得伝**(かうしよぜんしやうかんとくでん) 直往(ちやうかう)松野善之丞(しょうぜんしやう)著(口述)。称阿(しやうあ)厭欣沙門(えんしんさんもん)編・跋。林丹治(りんたんぢ)豊信(ほうしん)画。天明2(1783)▽父(松野善四郎)の病氣平癒祈願のため地元の観音堂や薬師堂を参拝した奥州伊達郡南半田村の孝子善之丞が、地藏菩薩の導きによって地獄および極楽めぐりをした体験を記した実録書・勸化本。 ②**彼岸状**(ひがんじやう) 作者不明(樋口伊之輔か)書。文化15(1818)▽北山村(岐阜県山県郡、または和歌山県東牟婁郡か)住人の樋口伊之輔(15歳)が自ら揮毫し自ら用いた手習本。仏節に基づく死後の世界、即ち、閻魔大王によって生前の善悪が裁かれるまでの経緯やその後の行先である地獄や極楽など、彼岸のあらましを記したもの。 ③**三世乃道歌**(さんぜのうみちうた) 推翁(すゐ)禪師(ぜんし)作・画。文政11(1828)▽「仏法はひくふとくほど道おほく 魔説(まごく)におちて人ぞまどへる」から「おさな子もいふことやすき道なれど おこなひがたき諸悪莫作(しよあくもくさく)」までの道歌10種を収めた仏教系の絵入道歌集。 ④**潤家潤身**(じゆんけあじゆんみん) 徳道(とくだう)徳本行者法孫(とくほんぎやうほふそん)作。江戸後期▽「怠らぬ夏のかせぎのほどども穂にあらはれて出る秋の田」のような道歌一首を掲げて導入とし、種々の金言や教説を引きながら道歌の趣旨を敷衍するという形式で綴った浄土宗系の教訓書。

12 卷【**仏教(放生)**】「6点」 ①**商家繁栄・農家豊作**(かみけはんえい・のうけあゆさく) 重宝記(じやうぼうき)民家豊饒(みんけあゆにやう)重宝記(じやうぼうき)森住万願堂(しんぢうまんのうどう)柳意(りゅうい)編・序。弘化2(1845)／嘉永1(1828)▽牛馬の殺生防止と放生推進のために、大阪の森住万願堂が発起人となり、老牛馬放生元の春木屋吉兵衛や摂州八部郡西須摩村住民らが協賛して施印した啓発パンフレット。 ②**放生欲喜州**(はうしやくきしゅう) 念阿純称(ねんあじゆんしやう)京南伏水誓願寺(きやうなんふすいしかんがうじ)作。速水春曉(すみづはるけう)画。文化13(1816)▽湖南の鉄鈴居士(てつりんきし)の依頼により著した草稿を童蒙用に添削して上梓した浄土系放生教訓書。 ③**誠殺放生文**(しやうじやくはうしやうぶん) 山城国鞍馬山某蘭梨(さんけいこくあまのやまのかつらんり)作。天保7(1836)▽冒頭の「殺生因縁六斎日(ころしやういんねんろくさいにち)の事」で殺生・放生と因果応報の道理を詳述し、せめて毎月の六斎日だけでも殺生を慎み放生の陰徳を積むべきことを論じ、放生の際の呪文・経文を示した「放生略作法」を掲げる。 ④**放生勸進録**(はうしやくくしんろく) 作者不明。玉水画。嘉永4(1831)▽永代放生大会を催して加入者の先祖供養とともに毎月魚鳥一萬生の放生を行う放生会の入会勸奨用の小冊子。世の中の卑近な事例を引きながら論じ、誰もが望む無病長命・家運繁盛・子孫長久・富貴繁栄・家内和睦を得るための放生を説く。 ⑤**放生手引草**(はうしやくていりやうそう) 諦忍(ていにん)妙竜(めうりゆう)・雲蓮社(うんれんしゃ)空華(くわ)作・序。嘉永6(1833)▽尾張国八事山興正寺五世の妙竜が晩年に著した真言系の放生教訓書で、死後半世紀以上を経た嘉永年間に上梓されたもの。 ⑥**法義家内示談**(ほふぎけいないしだん) 浄満寺(しやうまんじ)湖東野洲(ことうのしゅう)祠講師某(し)述。万延1(1860)▽湖東野洲の浄満寺の僧侶某が「家内和合を専らにをしへ、生ては家富栄、死ては浄土に生るの金言、二世安楽の要道」を説いた法話「家内示談」に挿絵を施し上梓した真宗教訓書。

13 卷【**語彙(通俗辞書)**】「3点」 ①**疊辞訓解**(じやうしじゆんげ) 白雲居士(はくうんきし)編・跋。延宝9(1681)▽同一の漢字を重ねて物事の状態などを示す疊字ばかりを集め、天文・地理・宮室・時令・人物・鳥獸・蟲魚・人事・花木・文史・珍宝・衣服・飲食・器用・彩色・数目的16分類に分けて掲げた国語辞書。 ②**授幼難字訓**(じゆうなんじじゆん) 井沢長秀(いざわちやうしゆ)蟠竜子(ばんりゆうし)編・序。享保12(1727)▽和漢諸書から難しい漢字の和訓を集め、「いにしへの訓をば大やうはぶき、しばらく俗間のいやしきことばにかへ、冒頭第一音のイロハ順に配列した童蒙用の語彙集。 ③**童子要字海絵抄**(どうしやうえいじしやうかいしやう) 作者不明。江戸中期(安永頃)刊行▽職業別に日用語を集めた「農家用文字尽」「商家文字尽」、手紙用の日常語を集めた「書札要字集」からなる語彙科往來。

14 卷【**語彙(通俗辞書)**】「4点」 ①**寺子節用錦袋鑑**(じしよせちやうきんたいかん) 作者不明。寛延4(1751)▽節用集のイロハ分けにならって庶民の日用語を集めた往来物。 ②**増補字節用集**(ぞうほふじちやうしやうしゆ) 浅田恒隆(あさだのりたか)編。安永5(1776)▽従来の節用集とは異なる語彙を意識的に集めた節用集で、意義分類としての部門分けはなく、語彙をイロハ順に六行・付訓で掲げ、稀に割注を施す。 ③**子供節用集**(こどもせちやうしやうしゆ) 作者不明。文化3(1806)▽文化3年刊『分類早見字尽』2巻本を1巻に合綴した改題本で、前後を整えて23分類とした。 ④**意見早引大善節用**(いけんさうきやうだいぜんせちやうしやう) 為永春水(ためながはるみづ)教訓亭(きやくしんてい)長次郎(ちやうじらう)作・序。天保14(1843)▽節用集を模して「夫が意見の早引」として綴った戯文調の教訓書。

15 卷【**俚諺(俚諺一般)**】「4点」 ①**漢語大和故事**(かんごだいわごし) 部遊燕(ぶゆうえん)遊燕子(ゆうけんし)作。元禄4(1691)▽江戸前期の代表的な俚諺資料の一つ。 ②**心学俗語**(しんがくぞくご) 小林高英(こばやしこうへい)高英(かうへい)翁(おきな)作・序。可笑斎(かうしやうさい)画。文化14(1817)▽「心学」の教とも可成一冊」として「昔より伝へ来る世の諺の仮令」を集めて解説を施したもの。 ③**心学** 以呂波成(いりはなり)作・序。文政7(1824)▽作者が児童の玩びに作った「いろは譬」と称する歌カルタを講釈したところ、子供たちが強い関心を示し、これを求める親も多かったため、その趣向でイロハで始まる俚諺・金言類を集め解説した教訓書。 ④**心体安楽丸**(しんたいあんらくがん) 作者不明。江戸後期刊▽表紙に「第一身を潤し心広く軀胖なるの妙薬」但し、小舎一反を朝夕とも常に用いてよし」と記すように、薬種の効能書に見立てて金言を箇条書きに列記した教訓書。

16 卷【**俚諺(道歌等)**】「2点」 ①**和漢詞徳抄**(わかんしよくていしやう) 一陽井素外(いちやうせいそがい)編・序。北尾重政画。安永8(1779)▽和漢の名言・名句・名歌等を題材に綴った童蒙絵入教訓書。 ②**鄙都言種**(びとごんしゆ) 森島中良(もりしまなかのり)森羅子(もりらし)作。享和2(1802)▽和漢の名言・名句・名歌等を題材に綴った童蒙教訓書『教訓警生草』五冊の第二・五巻に相当する絵入教訓書。



(12)



(11)



(15)



第2回配本(9~16巻)

17巻【養生】「6点」 ①養性百種（ひやくしやう） 曲直瀬道三作。天正17（1589）▽全百首の養生教訓歌集。服薬の慎み、飲食、休養・保養、入浴や飲酒の心得、心の持ちよう、季節の過ごし方、自覚症状と対処法など。道三の養生観も窺える。 ②養生歌（ようじやうた） 多紀元徳作。寛政6（1794）▽養生の道を庶民に知らしめるには、俚語で綴った和歌が理解・暗誦に有益なことから撰作した養生教訓歌集。 ③温泉考（おんせんこう） 原雙桂作。寛政6（1794）▽温泉の効用や治療・養生のための湯治や適切な温泉入浴法、温泉の歴史やメカニズムなどについて、和漢の諸書を引きながら記した書。 ④延寿養生談（えんじゆうせんじやうだん） 谷了閑作。文政3（1820）▽養生や病氣治療・服薬などの心得を庶民向けに平易に説いた養生書。 ⑤養生論（ようじやうろん） 久保謙亨作。文政9（1826）▽唐の名医・孫真人の養生法や貝原益軒の『養生訓』に基づき日用養生の秘訣を論じた書。 ⑥養生主論（じやうじゆうろん） 松本遊斎作。小沢華獄子画。天保3（1832）▽養生の重要性や食生活における心得などを述べた養生書。

18巻【養生】「5点」 ①病家示訓（びやうかじゆん） 加藤謙斎作。正徳3（1713）▽もともと病弱で医者通いが頻繁だったことから医者や病氣に精通し、三十年以上も親類知人の相談に応じた作者が、医者選びの参考に著した書。 ②些舛（せさく） 原南陽作。文化1（1804）▽陣中で医師が不在の場合の応急処置や治療法などを記した医書、漁獵や野遊びなど野外での事故にも有益とする。 ③食かゞ美（かきみ） 石川元混作。文政2（1819）▽日用飲食の能毒・禁忌等を平がなを以て精く記し、食物の名はいろは分にして、一一頭ら字を挙げて搜し求め便からし「めた通俗的な本草書。 ④田子養生訣（でんしやうじやうけつ） 田中楽山（田中雅楽郎）作。文政9（1826）▽尾張藩医の田中家に伝わる不老長生の術を記した養生書。 ⑤身体往来（しんたいわらい） 藤村秀賀作。万延1（1860）▽身体に関する基本語彙と若干の心得を綴った往来物。

19巻【産育】「4点」 ①兒相素見（しやうそけん） 通塵斎作。寛政6（1794）▽抱瘡の症状や抱瘡神、抱瘡と胎毒の関係、夫婦性交の吉凶日、顔色による抱瘡善悪の判断など、呪術的記述を多く含む抱瘡関連の通俗的医書。 ②秘伝衛生論（ひでんしやうじゆん） 本井子承（本井伊左衛門・穎川・遥重）作。寛政7（1795）▽子供から老人までの回虫症に関する代表的な医書。 ③抱瘡心得草（ほうさうしんこくそう） 志水軒朱蘭作。寛政9（1797）▽抱瘡ほど親の心を苦しめるものはないが、抱瘡に関する「俗家の用心・心得に成べき書」がないため、専門家の助言を得て、民家の「抱瘡人の介抱の致しかた」を仮名書きで認めたという抱瘡看護書。 ④小兒医療手引舛（しやうじやういりやう） 藤井見隆作。文化頃 ▽先行の医書『医療座右』から小児科に関する部分を抜粋したもの。

20巻【産育】「6点」 ①老婆心書（らうはしん） 羽佐間宗玄述、森宗哲他編。文化14（1817）▽天寿を全うするための基本となる産前後の養生や小児病の対処法などを平易に論じた仮名書きの医書。 ②麻疹必用（ましんひよう） 葛飾蘆庵作。文政7（1824）▽収録順に「痘疹年代記」「麻疹必用」「痘疹必用」の三部からなる仮名書きの医書。 ③護痘要法（ごてうようほう） 池田京水（瑞英・大淵）作。天保2（1831）▽森鷗外の著作で一般に知られるようになった洪江抽斎が、池田京水の説をまとめて出版した私家版の通俗的医書。 ④安産幸運録（あんさんくうんろく） 賀茂熊斎清行作。荒本峯拳画。天保9（1838）▽上巻に婚礼の日取りや方位など暦占関係、中巻には産前後の心得や初宮参り、下巻に通過儀礼および修身齊家心得を収録した産育書。 ⑤絵本目出度舛（えほんめだくさ） 長谷川貞信雪花園画。嘉永3（1850）▽抱瘡の心得や妙薬「金随丸」の効能などを軍記物風の戯文で綴った絵本。 ⑥愛育附言（あいいくふげん） 葦廼舎（亀齡橋隠士）作。安政3（1856）▽折本仕立ての懐中用の小児病手引書。著者による私家版で、漢字のほとんどに振り仮名を施し、箇条書きや短文で簡潔明瞭に記述する。

21巻【教訓】「5点」 ①善惡道中独案内（ぜんあくだうちゆうどくあんない） 志村天目（天目山人ほか）編。竜鱗舎一甫画。寛政8（1796）▽既に流布していた『人間一生善惡両道中独案内』を改編したもので、人間の一生を道中に見立てた勸善懲惡の書。 ②世渡名所図会（よわたりなしょずゐ） 作者不明。速水春曉斎画。享和2（1802）▽人間一生の心得を名所廻りの旅路に見立てて説いた戯文で、見開き挿絵を随所に掲げて名所図会風に作る。 ③七福神利生伝（しちふくしんりしやうでん） 段塚六郎左衛門作。文化1（1804）▽「七福神のきらひ給う七ヶ条」を中心に生活心得を述べた心学系教訓書。 ④人間要路用心袋（にやうじやうようじんようしん） 作者不明。天保15（1844）▽正直・慈悲・忠孝・年回法事・俟約・隱徳・誠心・家業出精・四知等を説いた教訓書。 ⑤《善惡》迷所図会（ぜんあくめいしよずゐ） 溪斎英泉作。弘化2（1855）▽『善惡道中独案内』にならい、人間の一生を道中記の路程に譬えて勸善懲惡を説いた滑稽本。

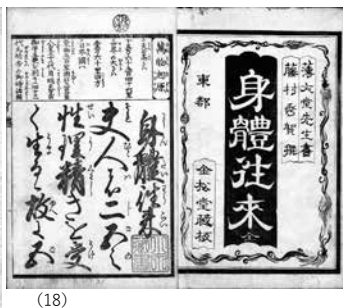
22巻【教訓】「4点」 ①むかしありしこと 山本北山作。寛政9（1797）▽書名のように過去の実話を絵解きした勸善懲惡の書。 ②教訓童草（きやうくんそう） 小沢種春（柳園種春ほか）作。文政10（1827）▽故事・略伝・逸話など作者が見聞した話を集め、随所に図解や教訓歌等を添えた教訓書。 ③教訓古今道しるべ（きやうくんきんどうしるべ） 小野弘度（蝠翔斎ほか）編。天保8（1837）▽倉敷の絹商人である作者が諸国行商の折に約30年かけて書き溜めた道歌等を精選し一書にまとめた心学書。 ④教訓宝入船（きやうくんたうふね） 作者不明。江戸後期 ▽主として仏教（法華經）によりながら、神儒仏の三教から町人世俗の教訓を説いた絵入りの教訓書。

23巻【教訓】「3点」 ①農家童子訓・海隅田舎草紙（のうかどうしゆん・かいぐつたしかさじ） 中村郷左衛門（慎行）作。文化6（1809）▽長崎県対馬地方で使用された往来物。 ②下民小学（かみんしやうがく） 知足庵（南総周准郡大鷲村住人）作。文化12（1815）▽全33カ条と後文で庶民向けの教訓を綴った往来物。 ③在郷童教訓書（ざいじやうどうきやうしんしやう） 原三省作。安政2（1855）▽二間手村（現・岐阜県郡上市）に住む作者が地域の庶民子弟用に編んだ往来物。

24巻【教訓】「2点」 ①忠孝道の栞（ちゆうかうだうのしやう） 有隣堂谷神作。芳田月長画。文政2（1819）▽戯れ歌と戯画の絵解きを交えて忠孝等を論じた平易な童蒙教訓書。 ②三教童諭（さんきやうどうごん） 思恩堂非得（非徳）作。文政3（1820）▽神儒仏に教えるの違いはあっても究極は勸善懲惡にはかならないことから、主に人口に膾炙した俚諺の解説と絵解きによって人道を説いた教訓書。

25巻【家政】「3点」 ①万宝智恵袋（ばんぼうちゑふくろ） 三芳梅庵作。君山子（洛下隠士・金玉満堂）序。享保10（1725）▽上巻に天文・地理・時節、中巻に衣服・飲食・居室・医業、下巻に禽獣虫魚・草木・詩歌・雑事の合計二門（目録による）に分けて種々の知識や生活上の秘訣などを集めた書。内容は医業関係が圧倒的に多い。 ②俗家

(17)



重宝集（ほうくしゅう） 劉卜子（豊副道人）作。文政7（1824）▽題簽題傍書に「めうやくの秘伝／まじなひの秘法」と記すように、本文に「奇薬の部」、頭書に「奇徳の部」を収録した家庭医療・生活関連書。「奇薬の部」は、「時疫の奇薬」から「後座下す奇方」までの50カ条で、怪我・疾病等の薬や予防法などを簡潔に記す。③**秘事新書**（ひじしん） 本木昌造（点林堂）作・序。慶応4（1868）▽日本の活版印刷技術の礎を築いた本木昌造（1824～75）が生活関連の西洋知識や技術、日用品その他の各種製法を記した書。凡例によれば洋書中に見出した記事や西洋人から直接聞いた話などについて実際に実験し、うまく行かない場合には何度も西洋人に質疑するなどして「確実正當なる」情報を収録したとする。

26巻【家政】【2点】 ①**大全針刺宝**（たいぜんしんさくほう） 作者不明。西川竜章堂書。文政8（1825）▽書名は裁縫関連書を思わせるが、実際は、女性の手紙文例集である女用文章に種々の生活関連記事などを加えた女子用往来。「年始の文」から「年忘に招文・同返事」までの66通の女用文章が本書の中心で、五節句や通過儀礼に伴う祝儀状、その他吉凶事にまつわる手紙、また、誘引状・依頼状その他諸事の手紙の順に掲げる。②**女伝心鈔**（おんなでんしんしょう） 作者不明。玉水画。嘉永4（1851）▽裁縫・調理・暦占・通過儀礼・産育・四季礼法・年中行事等に関する記事を集めた女性教養書で、言わば女性用「重宝集」兼「大雑書」。「年徳神の事」「ぬいそめの事」「女伝心の事」「煮焚の事」「女言葉遣ひの事」など64項目と「巾着仕立上の事」「くはんぜ形巾着の図」を収録する。

27・28巻【家政】【1点】 ①**錦囊智術全書**（きんなんちじゆぜんしゆ） 吉文字屋市兵衛編。嘉永4（1851）▽次の4点を集めた生活百科の叢書で、第1冊「目錄」に新たに部門別（天地時候・占妙術・人物薬方・容飾香・衣服・器財・生類・艸木飲食の8門）イロハ分けの索引を施す。収録書は、収録順に（1）入江貞庵編、享保9（1724）刊『百工秘術前編』（江戸）竹田藤助板*智工・器工・食工・女工・磁工・雑工の6門、（2）藤井政武編、享保8刊『拾玉統智恵海』（京都）著屋勘兵衛板*部門分けなし、（3）藤井政武編、享保9刊『拾玉新智恵海』（京都）著屋勘兵衛板*部門分けなし、（4）藤井政武編、享保頃刊『拾玉智恵海』（京都）著屋勘兵衛板の増補版（増補版の刊年不明）*智術・伝授・入用・料理・燭火・秘療・選奇の7門。

29巻【家政】【4点】 ①**料理秘伝抄**（りょうりひでんしょう） 伊兵衛作。貞享1（1684）▽寛永20（1643）刊『料理物語』を抜粋した改題本で、底本は寛文10（1670）初刊『料理秘伝抄』改編版。種々の料理・調理法の要点が記され紹介されており、料理名などを囲み野で目立たせてある。また、本文中に「本膳・菓子七色」図と、見開きの「婚礼祝言図」「台所風景図」を掲げる。②**当流節用料理大全**（たうりゆうせつようりょうりだいぜん） 高嶋某（四条家）編。正徳4（1714）▽本書は正徳板のみで重版の形跡がないが、先行書の記事も意欲的に取り入れた当代の総合的な料理書の一つとして重要であろう。記事は「料理物語」「式正包丁料理切形秘伝抄」「合類日用料理抄」「茶湯献立指南」その他を参酌したものという（『家政学文献集成・続編 江戸期Ⅱ』の解説による）。③**経済をしへ草**（けいさいをしへくさ） 高井蘭山作・序。天保4（1833）▽あらゆる面での儉約を勧め、雑穀や種々の糧の中で無知のために活用されていないものがあることを指摘したうえで、「草木の食料になるべきものを、さまざまの書より抜粋して凶年の用に」役立てるための本書を刊行した経緯を記し、食用への加工方法や調理法、禁忌・解毒法など救荒食のあらましを綴る。④**漬物早指南**（つけものはやしなん） 小田原屋主人作。東

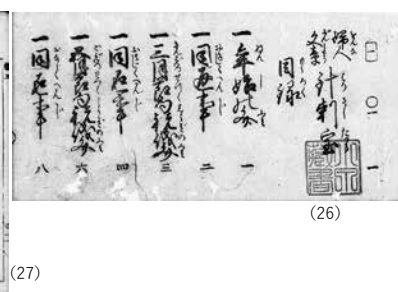
条琴台・好色外史・花笠文京序。文川画。天保7（1836）▽沢庵漬・三年沢庵・沢庵百一漬・刻漬・大坂切漬・浅漬・大坂浅漬・菜漬・京系菜漬・糠味噌漬・大根味噌漬・奈良漬瓜など各地の漬物64品の製法の手順と秘訣を説いた書。

30巻【教訓】【2点】 ①**民家分量記**（みんかぶんりょうき） 常盤澤北（貞尚・堯民）作。成島錦江（信遍）序。享保11（1726）▽野州・総州など北関東各地を遊歴して民衆教化に努めた作者の講話集。庶民向けに天地・人倫の道や「分量」すなわち、分を弁えた生き方を説いた教訓書。②**民家童蒙解**（みんかどうもうかい） 常盤澤北貞尚・堯民作・序・跋。竿舍兆翁序。元文2（1737）▽前掲『民家分量記』の続篇として編まれた講話集。本文中の記載から、享保19年3月から同20年5月にかけて北関東を歴訪した際に武州八王子や上州松井田（俣田千之宅）などで門人の要望で執筆したことが分かる。

31巻【教訓】【4点】 ①**貝原先生家訓**（かいげんせんしやかくしん） 伝貝原益軒（篤信・損軒）作（後人による偽作とする説もある）。赤松勲（蘭室・大業・太郎兵衛）序。部関牛画（巻頭口絵）。宮本集（繩祖）跋。貞享3（1686）▽益軒が子孫のために綴ったとされる家訓を上梓したもので、「聖学須勤」「幼児須教」「土業勿怠」の3章合計20カ条から成る。貝原家では15歳になったり以上の家訓を代々相伝すべきことを後文で述べる。②**明君家訓集**（めいきんかくしんしゅう） 室鳩巢作。江戸中期▽賢君の本務とともに家臣の心得全般を述べた家訓で、正徳5（1715）刊『明君家訓』に挿絵を施した改題本。『明君家訓』は広範な流布を遂げた一方で異称が多く、長い間、原作者不明のまま刊本や写本で流布した。③**因士子教訓**（いんししよくわくしん） 嶋田半左衛門（浄雲）作。伊藤某（上来海村*現・松江市）書。元文頃▽因州鳥取藩士の嶋田半左衛門が讒言により伯州河村郡で浪人になった後、同所で剃髪して浄雲と改名し、田畑を買い求め12歳になる半治郎の教育にあたったが、その際に「毎朝一編ずつこれを読むべし」と書き与えた教訓書で、しばしば手習本として使用された。④**貞丈家訓**（ていけいけん） 伊勢貞丈（平蔵・安斎）作。屋代弘賢（輪池・詮賢）校・序。松山堂序。山本沢沢（長孝）跋。宝暦13年（1763）▽武家故実家として知られる伊勢貞丈が47歳の時に子孫に書き残した家訓を上梓したもので、教訓書として広く普及した。

32巻【教訓】【1点】 ①**訓蒙勸孝録**（くんもうくわんこうろく） 平井庸慎（主善・守善・舟山）編。馬杉恭（謙亭*和氣朝臣惟享・平井敬恭）序。石原房貞跋。速水春曉齋画序。文化13（1816）▽凡例に『孝経』の四、五章の意と『小学』の書に孝悌のことをいへるを主として、其ことの類ひによりて篇をわかち聚め侍り。『孝経』『小学』の教えを核に、勸孝の契機となる金言・故事や和漢の孝子伝などを集めた絵入り教訓書。

33巻【教訓】【4点】 ①**堪忍袋**（かんにんふくろ） 行願（大進庵・如意庵）作。宝暦8（1758）▽真言宗僧侶が堪忍のあらましを論じた絵入教訓書。堪忍にまつわる俚諺金言や譬喩逸話の数々を引いて堪忍の必然性や重要性を強調。②**和語陰陽文絵抄**（わごいんりやうもんえいしょう） 南里亭其楽編。文政3（1820）▽秀吉の朝鮮出兵に明軍を率い日本軍を撃



(26)



(27)



(29)



(31)

退した学者が子のために著した『陰陽録』の趣旨に沿い、和漢の伝記等を集録した絵入教訓書。③《通俗》太上感心編(とうさうかんしん) 玉斎画。文政6(1823)

▽太上老子のお告げをまとめ宋代以後の中国に普及した勧善懲惡の教訓書。本文を、大字・六行・楷書で綴り数句毎に行書の割注を施した。④《増補絵抄》和字功過自知録(わじこうかくしじろく) 株宏編。天保9(1838) ▽中国伝来の修行法を日本風に改変し日常生活における勧善懲惡の実践を促した。当時の庶民社会における善惡の価値基準が窺える史料。

34巻【教訓】「5点」①ふみ鏡(ふみかが) 法忍作。宝暦8(1758) ▽神道を主とした三教一致論の社会教化運動を实践した天台宗僧侶が、士農工商・医師・僧侶・町人・女人等の道・心得等を記した教訓書。②初学心得草(ししゅくしんこくそう) 涵養齋陳人編。文化11(1814) ▽博学でも「敬」の修行を欠く者は孔門の徒にあらずと戒め、「持敬」が学者第一の修行と説く、道を知る修行の基本を論じた小冊子。③達道弁(たつどうべん) 伊東照方作。天保8(1837) ▽「君臣之義」「父子之親」「夫婦之別」「兄弟之序」「朋友之信」に分け、漢籍の一節や古語俚諺等を引いて「五倫」を概説した小冊子。④修斉訓(しゅうせいしゅん) 山本邦好作。直彦・淇水(蝸庵)画。安政4(1851) ▽人倫や処世訓、陰徳や積善・慈悲心、儉約、知己・知足安分、因果応報等を記した絵入教訓書。漢語の多くに字音字訓を施す。⑤齊家録(せいけりく) 飯島慶光(竜田翁)作。安政5(1858) ▽衣食住・金銀・精勤・治家・婦女子・君臣・父子・学問等13項に及ぶ簡潔な生活心得を、作者が子弟と門弟のために著した教訓書。

35巻【教訓】「4点」①利運談(りうん) 八隅中立作。長谷川雪旦画。文化13(1816) ▽害運を避け利運に就くための心得を説いた絵入教訓書。寓話や比喩を通じて利運をもたらす秘訣や心得を述べ纏わる故事来歴を紹介。②童諭宝富草(どうごんほうふそう) 福田陳人作。文政7(1824) ▽諸書より童蒙向けの諸教訓を集めた絵入教訓書。いろは短歌等を引いて幼時の躰を教え、親孝行・女子三従・育児・五常等にも言及する。③童子訓(二円齋)(どうじしゅん) 作者不明。江戸後期 ▽七五調の美文体で童蒙心得を記した小冊子。幼少時の教育の重要性を述べ、学業や芸能についての心得、礼儀作法や孝行などを説く。④童子訓(四三力条)(どうじしゅん) 作者不明。江戸後期 ▽童蒙初学の教訓として綴られた長短合わせて43力条から成る教訓書。忠孝・奉公等武士の役割を中心に武家生活諸般の教訓を綴る。

36巻【教訓】「5点」①童子常の心得(どうじしゅん) 篠原門次作。江戸中期 ▽両親に対する態度や言葉遣い等孝行の実践例を中心に説く教訓書。都々逸や道歌等付録記事や本文の記述には石門心学の影響が色濃い。②童子手引草(どうじしゅん) 稲垣丘山作。文化13(1816) ▽古人の教訓や金言から家業出精や身の養生の心掛け等孝行のあらましや、子育て、女子の役割、生涯の指針や子孫相続の肝要を述べる。③教訓御御艸紙(きょうしゅんごごし) 中村源八郎(松本金水)作。天保14(1843) ▽父母の大恩・孝子譚や忠孝・五常の訓話の紹介等、寓話逸話など短文の訓話を集めた絵入教訓書。④童子教訓(修身雑話)(どうじしゅん) 今堀高英(窓屋)作。弘化4(1821) ▽孝行・儉約・積善など徳目を主とした童蒙の心得となる説話や苦楽・言葉の慎み・父母の恩など諸徳を説き略伝を載せた絵入教訓書。⑤庭訓艸(ていしゅん) 野津善平(信言)作。安政6(1859) ▽食物や財物の節儉、四恩、正直な飲食、若年の艱難辛苦と家業出精、堪忍と謹慎、義理と実意、熟慮と決断等を説いた童蒙教訓書。

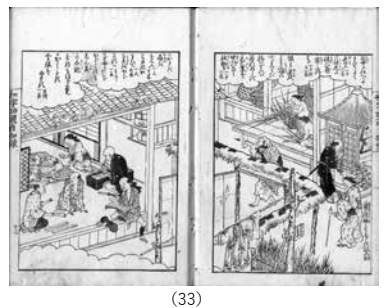
37巻【語彙】「6点」①古版字尽(こはんじしん) 作者不明。寛永21(1644) ▽洛中洛外の地名・樹木名・草木名・僧侶名・名字・魚名を収録。いずれも本文を大字・五行・付訓で記す。②童子節用集(どうじしゅん) 作者不明。明和7(1770) ▽元禄頃刊「節用集(両点)」字尽入の本文のみを抽出し付録記事を改めた改編版。イロハ引き語彙集で本文を大字・五行・付訓で記す。③数量字尽重宝記(しうりょうじしん) 黒井古井作。安政3(1856) ▽1〜30までの数量・名数関係の語彙を集めた往来物。計200語収録。本文を大字・六行・付訓で記し語句の大半に用例などの略注を施す。④道具字引図解(初編・二編)(どうぐしじゆかい) 柳河春三(又玄斎南可ほか)作。元治1(1864) ▽『商売往来絵字引』と手法で「神儒仏、朝武、農工商民家の用具、日用の器財」に関する語句を挿絵や略注と共に列挙した往来物。⑤品物名数抄(しんぶつめいすう) 松沢老泉作。江戸後期 ▽諸物の数量呼称(助数詞)を分類した語彙集。24類に分けて語彙を楷書・一〇行・稀に付訓で記し、それぞれの数量呼称を割注で記す。⑥大和日用早学(やまとにちようはやく) 成文堂書。江戸後期 ▽語彙と消息に関する記事を集めた往来。肥前の地名が見える。数量呼称、単位語、木材・衣類・家財・日用品の名称と関連語等を収録。

38巻【語彙】「1点」①世説故事苑(せせつご) 子登編。正徳6(1716) ▽大阪の住職が様々な用語の故事や由来などを典拠を明示して詳述した事典。計423力条を和漢諸書、特に仏書から多くの説を引いて解説。

39巻【語彙】「1点」①事物異名類編(じぶついみなみょう) 荒井公履編。文久1(1861) ▽清の『事物異名録』をイロハ・部類分けに改め、柴野栗山編『雑字類編』の体裁に倣って初学者にも使いやすく編集した異名辞典。

40巻【年代記】「3点」①《日本・唐土》二千年袖鑒(にせんねんそくかん) 浜松歌園ほか編。嘉永5(1852) ▽挿絵を多く掲げ、故事や事件の年号と出版時までの年数を明記する歴史便覧。硬軟交々の故事を扱い誰にでも楽しめると宣伝している。②永代年代記大成(えいたいねんだいだい) 細河並輔編。弘化3(1826) ▽大化・幕末の雑多な故事や事件を記した年代記。1丁で60年の升目を設け各年の主要事件を略述した年表等、暦占関連記事多数収録。③年代記絵抄(ねんだいし) 作者不明。明治初年(1868) ▽1丁で32年分の升目に大化・明治5年の主要事件等を記し全年号に挿絵を施した年代記。天皇の一覧から雑多な記事まで掲げた。

41巻【法令・教諭】「4点」①御当家御制法(ごとうけいごせいほう) 毛利綱広(泰厳公)制定。万治3(1660) ▽長州藩主の命により、国家老や寄組筆頭らが編纂した藩の基本法。毎年正月に政庁で朗読され、領内藩士子弟の手習本としても使用された。②《金銀》御吹替条目(ごふきじょうめ) 堀流水軒(観中・直陳)書。正徳4(1714) ▽幕府が出した「金銀復旧令」に伴う覚書や法令類を手本として認めたもので、当時の金融政策に敏感に呼应しこれを手習本として公刊した。③《教訓》伍家勢以令(ごけいし) 三野元密(象麓・伯慎)作。天明6(1786) ▽高松藩が領内に布達した五人組仲間が守るべき規範に記した短文「伍家制令」を、語句毎に詳しく解説・敷衍した絵入り注釈書。④御条目管窺(ごじょうめくわん) 三上則義作。天保14(1843) ▽越後高田初代藩主が布達した「御条目」を、庶民一般向けに解説した衍義書。条文の数倍



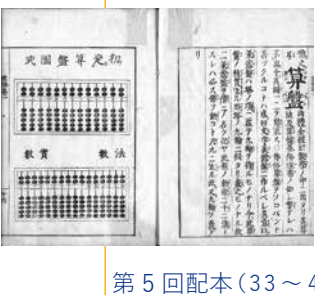
(33)



(36)



(37)



(38)

(40)

51巻【教育】「4点」 ①間合早学問（まあはやくもん） 大江玄圃作。明和3（1766）▽漢学入門者のために仮名書きで学問の要点を記した書。平易で親しみやすい学問から徐々に高めていく方法を丁寧かつ具体的に教える。②父兄訓（ふけいくん） 林子平（友直・六無齋）作。天明6（1786）▽孝・悌・忠・信・勇・義・廉・恥の八徳に基づく育児の基本を父兄に諭した書。子弟の善悪・邪正の九分までは父兄の責任と強調。③てみやげ 小町玉川（雄八・玉成）作。天保6（1835）▽関東各地を遊歴し漢学や詩文を教えた作者が、子育ての秘訣や年代別教育論などを説いた書。子どもが死と向き合う大切さも述べる。④女学校発起之趣意書（おんながっこうはつぎのしゆいしょ） 奥村城山（喜三郎・増地）作。天保8（1837）▽著者は増上寺領の地方役人。「女学校」の語を用いた最初の著作とされ、徳育中心の良妻賢母主義教育の先駆として注目される。

52巻【地誌】「2点」 ①人国記（ひとくにき） 関祖衡（平祖衡・木斎）作。元禄14（1701）▽越前の地誌学者が、旧『人国記』を補訂し各国住民の気質・風俗の特徴を述べた地誌で、日本人の地域性を総説した最古の地図入り文献。②長崎土産（ながさきみやげ） 磯野信春（文斎・文斎堂ほか）作。弘化4（1847）▽長崎の浮世絵師兼書肆が著した案内書。異国人風俗や風景・風物の挿絵を掲げ、名所図会で流行した精密な鳥瞰図や斬新な遠近法も採用。

53巻【地誌】「3点」 ①松島図誌（まつししまづし） 桜田虎門（桜田質ほか）作。文政4（1821）▽松島の名所旧跡の数々を紹介した案内書ながら、伝承や諸説を鵜呑みにせず、検証し「観るにたらず」と一蹴する記述も見られる。②江戸名所花暦（えどなましょはなれき） 岡山鳥節亭琴驢（はなせりやう）編。長谷川雪旦（宗秀）画。文政10（1827）▽江戸府内と近郊の花鳥風月・風物を四季毎に紹介した案内書。花の見頃や縁日・故事来歴・遊覧心得等の関連情報や風景画も掲げる。③皇都靈跡志（こうとれいせきし） 僧純（正聚房）作。梅川東居（東居）画。安政5（1853）▽親鸞聖人六百回大遠忌を前に、由来する京都の霊跡12カ所を紹介した書。逸話を交えたり諸文献の記述に触れながら故事来歴等を綴る。

54巻【外国地誌】「1点」 ①増補華夷通商考（さうほくわあいつうかう） 西川如見（求林斎ほか）作。宝永6（1709）▽『異国風土記』や『職方外紀』等に依拠し長崎で得た情報も加味した日本初の本格的な世界地誌。来航する唐人等の記事や唐船各図も掲げる。

55巻【外国地誌】「1点」 ①坤輿図説（正編）（こんよ図せつ（せいへん）） 箕作省吾（寛ほか）編。弘化2（1845）▽本邦初の世界地図『新製輿地全図』の刊行者が、解説書として編んだ世界地誌。内憂外患の幕末期に海外情勢を把握する重要な書とされた。

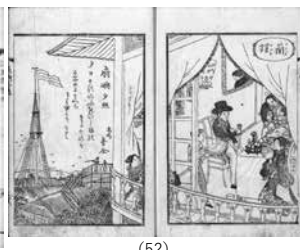
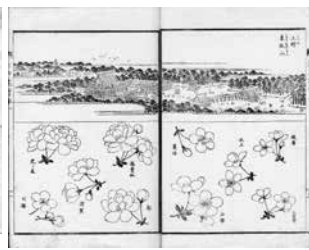
56巻【外国地誌】「1点」 ①坤輿図説（補編）（こんよ図せつ（ほへん）） 箕作省吾（寛ほか）編。弘化3（1846）▽単なる補遺に止まらず、各国の政治体制や経済・交易・軍備など国力・軍事力の実情や宗教・文化的特徴などに踏み込んだ記述が目立つ。

57・58巻【教訓】「1点」 ①為人抄（いひょう） 苦甜齋守株（中江藤樹力）作。寛文2（1662）▽作者志学の15歳頃から書き集めた聞き書きに、和漢の聖賢・偉人等の故事や和漢書の金言等を交えて初学者の心得を平易に説く教訓書。

59巻【救荒・防災】「10点」 ①鎮火用心集（ちんかしんけいしゅう） 頓宮仲左衛門（頓宮笑月ほか）作。享保16（1731）▽作者の見聞に基づき主として商家における防火・消火の心得を書き記した心得書。「回禄用心集」と「平生心懸置べき事」から成る。②御薬方書（ごやくほうし） 作者不明。天明4（1784）▽享保飢饉の対策として被災地に頒布された『薬法書』を修正した『薬法書付』の一部削除・改変し簡素な内容で上梓した小冊子。③かてもの 荏戸善政（大華）ほか編。享和2（1802）▽天明の大飢饉を前に米沢藩主・上杉鷹山の命を受けた重臣が指揮を執り、飢饉時に備える代用食の調査・研究を踏まえ編纂した救荒書。④救荒須知録（きうかうしゅちりく） 凌雲居士作。天保4（1833）▽救荒作物を始め備荒および飢饉時の諸心得を記した救荒書。天保の大飢饉の被害が甚大であった東北地方の民衆をいち早く啓発した。⑤救荒鄙論（きうかうひろん） 作者不明。江戸後期。▽飢饉時の救荒作物の食用加工・調理・保存法や禁忌等の他、代用食、解毒法、粗食の工夫など飢饉時の養生法にも触れる簡易な救荒書。⑥「飢食三益」家宝往来（ききしさんえきかみわらい） 作者不明。天保5（1834）▽粗食・微食を主とする儉約心得を載せた往来物。三度の食事の一回を粥にする延寿のための養生・儉約法が庶民困窮の助になる等と論ず。⑦きょん心得種（きょんしんけいしゅ） 山岡霞川（其月斎）作。天保7（1836）▽干魃・天候不順・水損等による凶作への備え等、農民の心得や、大飢饉の惨状や幕府の対応を教訓に勤儉や備荒の重要性を論じた往来物。⑧地震百人一首（じしんひゃくにんいっしゅ） 鈍中納言破家卿作。明和3（1766）▽百人一首の歌人を用いて明和津軽地震を詠んだ狂歌。百人一首のパロディは数多いが、実際に起きた地震を題材にした点が異色。⑨「江戸」大地震末代噺の種（しんまつだいはなし） 作者不明。安政頃。▽安政江戸地震の経緯や江戸府内各地の建物・人命の被害状況・経過、被災者、自然現象、逸話、幕府の救済措置等をまとめた絵入り冊子。

⑩「大江戸」地震後教（おほえどじしんごきょう） 休庵斎作。安政頃。▽『実語教』の文言に似せて安政江戸地震後の模様などを記した往来物。被害状況や罹災者への援助、地震に対する心得等も含む。

60巻【神道】「6点」 ①神風恵草（かみかぜくさ） 新松忠義（忠閭・守柱翁）作。享保9（1724）▽八幡大菩薩・天照皇大神宮・春日大明神の「三社託宣」それぞれの意味を問答体で詳述し、極めて詳細に考証を加え独自の見解を示した書。②天地恵（あめのみこ） 九嶋義保（不学自性居士。天惠斎力）作。画。文化1（1804）▽神儒仏に通じた作者が「女わらべによろづ冥理を知らしめんため」に詠んだ道歌を主とする教訓書。既刊『天の恵』を大幅に改編したもの。③龍神秘説（りゅうしんひせつ） 玉田永教作。文化4（1807）▽火を扱う場所を司る龍神や五穀・食物を司る神等の由来や諸説等を紹介。考証を通じて誤謬や迷信を排し、禁忌や祭礼等にも言及。④「神儒仏」三教和談（さんけうぶつわんだん） 大森三楽（不明堂）作。天保4（1833）▽究極において神道・儒教・仏教の三教は一つであると、三教一致の道理を順々に説き、寓話・道歌等も交えて平易に論じた教訓書。⑤民家敬神録（みんかけいしんろく） 城戸千楯（大江千楯）作。天保11（1840）▽種々の「神書」などを参酌して、神を祭る意義、不浄を避け穢れを祓う、先祖供養等、神道の基本的な心得を簡潔に説いた書。⑥三界一心記図会（さんがいしっしんきずかい） 春屋織月（真脱庵・為麻絢）作。嘉永2（1809）▽上河淇水の未完書を門弟が補述・公刊した絵入り教訓書。万物の根元、陰陽和合、本心を知ること等を種々の故事や寓話を引いて論ず。



江戸時代庶民文庫

全100巻
別巻2解題 小泉吉永
(往来物研究家)

学術資料出版

大空社出版



●収録資料 354点 ●総(影印)ページ約 39,000頁

への頼りになる道案内=別巻2冊

体裁: A5 判・上製・クロス装

別巻「江戸庶民」の生活を知る「解題・索引」[1-60 巻] 660 頁 (2016 年 12 月刊) 978-4-908926-02-0 本体 28,000 円

別巻「江戸庶民」の生活を知る 2「解題・索引」[61-100 巻] 614 頁 (2022 年 5 月刊) 978-4-908926-12-9 本体 28,000 円

◆1〜60巻(特に1〜40巻)の在庫が非常に少なくなっています。

巻	【ジャンル】内容(収録資料点数) 頁数	ISBN 978-4-	本体価格 (税別)
1	【女性百科】女芸文三才図会(1点) 540頁	86688-001-3	19,000円
2	【女子教訓】女要訓和歌文庫他(2点) 280頁	86688-002-0	9,500円
3	【語彙】万宝女節用罌粟囊(2点) 350頁	86688-003-7	12,000円
4	【女子教訓】婦人教訓・女今川伊呂波文他(3点) 290頁	86688-004-4	10,000円
5	【風俗・遊女】漫画百女他(3点) 330頁	86688-005-1	11,500円
6	【諸芸】当流謡指南抄他(4点) 300頁	86688-006-8	10,000円
7	【暦占】天竺靈感観音籤他(3点) 290頁	86688-007-5	10,000円
8	【遊戯】秘事百撰・前編他(5点) 380頁	86688-008-2	13,000円
9	【仏教(臨終行儀)】孝養集他(3点) 510頁	86688-009-9	18,000円
10	【仏教(往生)】女人往生章他(3点) 320頁	86688-010-5	11,500円
11	【仏教(仏教一般)】孝子善之丞感得伝他(4点) 320頁	86688-011-2	11,500円
12	【仏教(放生)】商家繁盛・農家豊作・重宝記他(6点) 450頁	86688-012-9	16,000円
13	【語彙(通俗辞書)】暁辞訓解他(3点) 330頁	86688-013-6	11,500円
14	【語彙(通俗辞書)】寺子節用錦袋鑑他(4点) 390頁	86688-014-3	13,500円
15	【俚諺(俚諺一般)】漢語大和故事他(4点) 400頁	86688-015-0	14,000円
16	【俚諺(道歌等)】和漢詞徳抄他(2点) 330頁	86688-016-7	12,000円
17	【養生】養性百種他(6点) 430頁	86688-017-4	15,500円
18	【養生】病家示訓他(5点) 460頁	86688-018-1	16,500円
19	【産育】児相素見他(4点) 430頁	86688-019-8	15,500円
20	【産育】老婆心書他(6点) 510頁	86688-020-4	18,500円
21	【教訓】善惡道中独案内他(5点) 380頁	86688-021-1	13,500円
22	【教訓】むかしありしこと他(4点) 310頁 〈品切〉	86688-022-8	11,000円
23	【教訓】農家童子訓・海隅田舎草紙他(3点) 430頁	86688-023-5	15,000円
24	【教訓】忠孝道の栞他(2点) 400頁	86688-024-2	14,500円
25	【家政】万宝智恵袋他(3点) 310頁	86688-025-9	11,500円
26	【家政】大全針刺宝他(2点) 480頁	86688-026-6	18,000円
27	【家政】錦囊智術全書(一〜三冊)(1点) 340頁	86688-027-3	12,500円
28	【家政】錦囊智術全書(四〜七冊)(1点) 320頁	86688-028-0	11,500円
29	【家政】料理秘伝抄他(4点) 320頁	86688-029-7	12,500円
30	【教訓】民家分量記他(2点) 490頁	86688-030-3	18,000円
31	【教訓】貝原先生家訓他(4点) 320頁	86688-031-0	12,000円
32	【教訓】訓蒙勸孝禄(1点) 520頁	86688-032-7	19,000円
33	【教訓】堪忍袋他(4点) 340頁	86688-033-4	13,000円
34	【教訓】ふみ鏡他(5点) 360頁	86688-034-1	14,000円
35	【教訓】利運談他(4点) 380頁	86688-035-8	14,500円
36	【教訓】童子常の心得他(5点) 360頁	86688-036-5	14,000円
37	【語彙】古版字尽他(6点) 320頁	86688-037-2	12,000円
38	【語彙】世説故事苑(1点) 380頁	86688-038-9	14,500円
39	【語彙】事物異名類編(1点) 380頁	86688-039-6	15,000円
40	【年代記】日本・唐土・二千年袖鑑他(3点) 380頁	86688-040-2	15,000円
41	【法令・教諭】御当家御制法他(4点) 340頁	86688-041-9	13,000円
42	【法令・教諭】父母状講釈他(6点) 320頁	86688-042-6	12,000円
43	【礼法】三礼口訣他(2点) 330頁	86688-043-3	12,500円
44	【礼法】日用贈答・書札辨惑集他(2点) 410頁	86688-044-0	15,000円
45	【教訓】主従心得草(初・二編)(1点) 480頁	86688-045-7	17,500円
46	【教訓】主従心得草(三〜五編)(1点) 570頁	86688-046-4	21,000円
47	【教訓】絵本清水の池他(6点) 330頁	86688-047-1	12,000円
48	【教訓】教訓・拾ひ歌他(7点) 320頁	86688-048-8	12,000円
49	【教育】武小学他(3点) 390頁	86688-049-5	15,000円
50	【教育】授業編他(2点) 400頁	86688-050-1	15,500円
51	【教育】問合早学問他(4点) 350頁	86688-051-8	13,500円
52	【地誌】人国記他(2点) 350頁	86688-052-5	13,500円
53	【地誌】松島図誌他(3点) 440頁	86688-053-2	16,500円
54	【外国地誌】増補・華夷通商考(1点) 460頁	86688-054-9	14,000円
55	【外国地誌】坤輿図識・正編(1点) 310頁	86688-055-6	12,000円
56	【外国地誌】坤輿図識・補編(1点) 400頁	86688-056-3	15,000円
57	【教訓】為人鈔(一〜五巻)(1点) 340頁	86688-057-0	13,500円
58	【教訓】為人鈔(六〜十巻)(1点) 350頁	86688-058-7	13,000円
59	【救荒・防災】鎮火用心集他(10点) 360頁	86688-059-4	14,000円
60	【神道】神風患草他(6点) 450頁	86688-060-0	17,500円
61	【園芸・飼育】菊花壇養種他(4点) 320頁	86688-061-7	14,500円
62	【科学(化学・物理・理学)】舎密局必携他(4点) 450頁	86688-062-4	19,500円
63	【食養生】撰生談他(2点) 380頁	86688-063-1	16,200円
64	【料理・近代家政】西洋衣食住他(4点) 350頁	86688-064-8	14,500円
65	【絵画(入門書)】画筌(1点) 310頁	86688-065-5	13,300円
66	【笑話・小咄】時勢話大全他(4点) 350頁	86688-066-2	14,800円
67	【物産】広益国産考他(2点) 590頁	86688-067-9	23,400円
68	【歌謡】大津絵婦志他(7点) 320頁	86688-068-6	14,000円
69	【教育・学問】物覚早伝授他(4点) 390頁	86688-069-3	16,200円
70	【人物辞典】古今評論早引人物故事(1点) 480頁	86688-070-9	19,600円
71	【戯文】新ばんどどけ商売往来他(16点) 520頁	86688-071-6	22,500円
72	【故事・俗説】本朝俗談正誤他(2点) 430頁	86688-072-3	19,000円
73	【仏教】八宗伝来集他(4点) 470頁	86688-073-0	20,000円
74	【農業】除蝗録他(5点) 420頁	86688-074-7	18,500円
75	【絵本】絵本池の蛙他(2点) 340頁	86688-075-4	16,000円
76	【建築】雛形匠家秘伝他(3点) 400頁	86688-076-1	18,500円
77	【紀行】温泉遊草他(4点) 390頁	86688-077-8	18,500円
78	【暦】古暦便覧他(5点) 440頁	86688-078-5	19,000円
79	【気象】秉燭問珍他(5点) 610頁	86688-079-2	24,500円
80	【地方・経済】算法入勸農固本録他(3点) 360頁	86688-080-8	16,000円
81	【旅行・交通(海陸交通)】増補日本汐路之記他(2点) 380頁	86688-081-5	17,000円
82	【災異(地震・救荒)】饑年要録他(7点) 380頁	86688-082-2	17,000円
83	【仏教(般若心経)】般若心経絵抄他(6点) 430頁	86688-083-9	19,000円
84	【祭祀(葬祭)】非火葬論他(8点) 400頁	86688-084-6	17,000円
85	【漢学(語録)】言志四録(1点) 400頁	86688-085-3	17,000円
86	【医学・本草】広恵濟急方(1点) 600頁	86688-086-0	25,000円
87	【茶道】茶道早合点他(5点) 360頁	86688-087-7	16,500円
88	【天文】運気曆術天文図解(1点) 390頁	86688-088-4	17,000円
89	【医学・看護】古方便覧他(6点) 320頁	86688-089-1	16,000円
90	【辞書】日本釈名(1点) 350頁	86688-090-7	16,500円
91	【商業】町人考見録他(2点) 390頁	86688-091-4	18,000円
92	【商業】家業道徳論他(2点) 380頁	86688-092-1	18,000円
93	【書道】臨池求源鈔他(2点) 390頁	86688-093-8	18,000円
94	【伝記】妙祐往生伝他(9点) 400頁	86688-094-5	18,000円
95	【医学・養生】こけぬ杖他(2点) 340頁	86688-095-2	16,000円
96	【測量】規矩分等集他(4点) 450頁	86688-096-9	19,000円
97	【年中行事】国朝佳節録他(5点) 470頁	86688-097-6	19,000円
98	【神道】神路の手引艸他(6点) 540頁	86688-098-3	23,500円
99	【本草・植物】〈草形出生〉草花絵全書他(2点) 560頁	86688-099-0	25,000円
100	【画譜】絵本集草他(3点) 340頁	86688-100-3	17,000円

* 詳細案内はホームページにて(またはパンフレット)を請求を

本体価格(税別)				
第1期 (1〜60巻)	第1回(1〜8巻)	2012年11月	978-4-283-01002-4	95,000円
	第2回(9〜16巻)	2013年5月	978-4-283-01003-1	108,000円
	第3回(17〜24巻)	2013年10月	978-4-283-01004-8	120,000円
	第4回(25〜32巻)	2014年6月	978-4-283-01005-5	115,000円
	第5回(33〜40巻)	2015年1月	978-4-283-01006-2	112,000円
	第6回(41〜48巻)	2015年6月	978-4-283-01007-9	115,000円
	第7回(49〜56巻)	2015年11月	978-4-283-01008-6	115,000円
	第8回(57〜60巻)	2016年6月	978-4-283-01009-3	58,000円
別巻[第1期]				28,000円

第1期: 揃本体 866,000円

本体価格(税別)				
第2期 (61〜100巻)	第1回(61〜65巻)	2018年6月	978-4-86688-101-0	78,000円
	第2回(66〜70巻)	2018年11月	978-4-86688-102-7	88,000円
	第3回(71〜75巻)	2019年4月	978-4-86688-103-4	96,000円
	第4回(76〜80巻)	2019年10月	978-4-86688-104-1	96,500円
	第5回(81〜85巻)	2020年5月	978-4-86688-105-8	87,000円
	第6回(86〜90巻)	2020年11月	978-4-86688-106-5	91,000円
	第7回(91〜95巻)	2021年5月	978-4-86688-107-2	88,000円
	第8回(96〜100巻)	2021年10月	978-4-86688-108-9	103,500円
別巻2[第2期]				28,000円

第2期: 揃本体 756,000円

全100巻・別巻2 揃本体 1,622,000円

江戸時代の庶民生活の諸相を貴重な版本(影印)で見せる一大叢書

江戸時代庶民文庫

全100巻・別巻2

【完結】2022年5月

解題・小泉吉永(法政大学 講師)

江戸時代
さらに広く深く
尽きない魅力の世界へ

●収録資料 350余点

●総(影印)ページ約 39,000頁

●江戸時代に関するあらゆること
先ず「江戸時代庶民文庫」から！

民衆・女性・子ども・老人・身分・日常生活・
風習・習慣・教育・道德・教訓・神話・伝説・
社会・制度・産業・労働・農耕・職人・風俗・
芸能・医学・科学・経済・商業・交通・地理・
地誌・地域・地震・洪水・気象・災害・宗教・
絵画・美術・書道・出版・歴史、しぐさ・語り・歌・
踊り・娯楽 *豊富なビジュアル資料

特色

- ◆稀覯・新発見資料を多載
- ◆挿画・図版が豊富な史料を多載
- ◆鮮明印刷の版本「影印版」
- ◆充実の「別巻(解題・索引)」

『江戸時代庶民文庫』全100巻

(第1期：第1～60巻)
(第2期：第61～100巻)
+
別巻「解題・索引」2巻



別巻2冊
縦横無尽に駆け巡る
最強ツール！

*各巻
分売可

体裁：A5判・上製・クロス装

第1期・別巻
(2016年12月刊)

第2期・別巻
(2022年5月刊)

*価格・配本経過

……p.11

2026.10

学術資料出版

大空社出版

www.ozorasha.co.jp

東京都東村山市秋津町 5-24-13-101 (〒189-0001)
TEL:042-306-3383 / FAX:042-306-3384
eigo@ozorasha.co.jp

・お取扱
い